よりよい学校をめざして　－令和４年度　「学校評価」　報告－

令和５年３月２０日　川崎市立宮前平中学校

本校では、令和４年度の学校評価（自己評価及び学校関係者評価）について、全生徒対象のアンケート、３年生対象の全国学力・学習状況調査、PTA 委員及び学校教育推進委員会の皆様を対象にしたアンケート、教職員対象のアンケート及び年間反省等をもとに進めてまいりました。その結果を、以下のようにまとめましたのでご報告いたします。この結果と分析をもとにして、本校の教育活動が、生徒にとってより良いものとなるように工夫や改善を重ねてまいります。今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申しあげます。

１　生徒へのアンケート調査より　※25 項目、４択式及び自由記述

※「よく思う」「どちらかといえばそう思う」の合計を「肯定的」と表現しています。

（１）学校の教育全般について

・「学校へ行くのが楽しい」、「宮前平中でよかった」の問いに肯定的な回答をした生徒は８５％を超えており、昨年度よりも上昇しております。コロナ禍において学校の教育活動が少しずつ従来の形に戻ってきた影響も考えられますが、１０％弱の生徒が否定的であることについては、引き続いて今後の課題だと考えます。

（２）基礎的学力の定着、生きる力の育成について

・授業において「授業中、話し合ったり、協力して取り組んだりする活動を行っている」の問いには９割以上生の生徒が肯定的に回答し、昨年度よりも１０ポイント近く上昇しております。また、「課題の解決に向けて自分で考えたり、取り組んだりする機会が与えられている」、「自分の考えを発表する機会が与えられている」の問いについては、９割以上の肯定的な回答があり、いずれも昨年度よりも増えています。感染拡大防止策をしながら、授業において主体的な学習への取り組みが進められるようになった結果だと捉えています。

・「自分の疑問などを自分で解決」、「難しいことでもチャレンジ」の問いについての肯定的な回答は８割近くになってきていますが、生徒が主体的に課題を見出し、それに向かって挑戦していく機会などをどのように設定していくのか、ということが今後の検討事項です。

・また、感染症対策が広がる中でも、「学校は学習の遅れがないようにしている」、「学校は活動の機会を作っている」ことについて、昨年に比べると若干上昇しております。

・「GIGAPC を十分に活用している」についての肯定的な回答は、昨年度の６８％から８２％に増えていますが、約２割生徒が十分でないと捉えているので、今後も継続して取り組む課題です。

（３）生徒間の関係の構築について

・「いじめはどんな理由があってもいけない」の問いに肯定的に回答した生徒は９８％です。今後も、いじめ防止対策を進め、学校が一人ひとりにとって安心して過ごせる場、居心地の良い場となるように取り組んで行きたいです。

・「友達から大切にされている」の問いに肯定的に回答した生徒は９５％です。否定的に捉えている生徒に対して、どのように適切な支援をしていくのか検討していきます。

（４）教職員の対応について

・「生徒がわかるまで、先生は教えてくれますか」という問いに対して８６％が肯定的な回答をしており、昨年度よりも１０ポイント以上増えています。授業における適切な支援が少しずつ改善されているように捉えますが、さらに充実させていきたいと考えます。また、昨年度、肯定的な回答が低下していた「先生から認められている」、「先生は親身に話を聞いてくれる」の問いについては、肯定的な回答が１０ポイント増えています。継続して生徒に寄り添い、共感的な理解をしながら適切な支援ができるように、校内支援体制の充実を目指していきます。

（５）コロナ対策を含む、健康・安全について

・「感染症対策に十分に取り組んでいる」の問いに肯定的に答えた生徒は９０％で、昨年より２０ポイント近く上昇しました。昨年度の厳しい評価を受けて、生徒の不安を取り除くような対策を実施してきた成果だと捉えますが、今後も取り組みを継続していくことが大切だと考えます。

（６）社会・地域への関心・参画意識について

・「人の役に立つ人間になりたい」について肯定的に考える生徒は９割を超えています。その一方で、「地域貢献」への問いについては、昨年度よりは上昇しているものの、５割に満たない低い結果でした。中学校生活は忙しくて地域と係わる時間的な余裕がなく、機会がなかなか作れない現状があります。地域連携の具体的な取り組みを検討しながら、生徒達の「役に立ちたい」という思いを地域につなげる教育活動を展開するのが課題です。

２　保護者・学校関係者へのアンケート調査より　※６項目、自由記述

（１）学校教育全般について

学校の教育目標の実現に向けた教育活動について概ね肯定的に評価していただきました。大規模校なので、生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧に係わり合うことの大切さについてご指摘を受けましたので、今後もその点を考慮した教育活動を実践していきたいと思います。

（２）指導者との関係構築について

教育相談や面談の機会が設けられていることや、保護者の不安や生徒の特性を把握して対応していることについて評価していただいております。一方で、教職員からのアプローチを求める声や、思春期の生徒達が信頼して話ができる教師との関係作りを求める声がありました。教職員が多様な観点から生徒を見つめ、より丁寧な係わりを作ることができるように意識を向上させることや、傾聴する力の研鑽が求められていると感じました。

（３）基礎的学力の定着、生きる力の育成について

これからは未来を切り拓く力を身につける教育として、主体的に課題を見出し、他者とのコミュニケーションをとりながら協働して課題解決を目指す力が求められているという意見が寄せられました。また、ＩＣＴ等も活用しながら、基礎的学力を身につけたり、課題解決型授業をさらに展開したりすることが課題です。

（４）生徒間の関係の構築について

「いじめはいけないこと」と捉え、規範意識が高く、学校生活を大切にして過ごせていることに肯定的な評価をいただいております。他方では、家庭との連携を深めて生徒に対応をすることや、不登校対策についての取り組みについてのご指摘を受けています。生徒の支援体制作りを充実化させていきたいと思います。

（５）コロナ対策を含む、健康・安全について

感染拡大防止策をしながら、行事などが開催されたことについて肯定的な評価をいただきました。生徒の心の健康に、保健室が大切な場となっていることも肯定的な評価をいただきました。怪我への対応や健康指導等についての要望がありましたが、何よりもメンタルケアについての重要性を求める声が多くありました。命を守ることを大前提としながら、生徒の不安や心配なことについて、日常的なケアを教職員で連携して対応することを心がけていきたいと思います。

（６）社会・地域への関心・参画意識について

職場体験や地域との連携について、より連携を深められたら、という声をいただいております。感染防止対策を講じながら、今後は地域社会への参画について地域の皆様と共に協議しながら、生徒自身に考えさせ、実践する機会を設定していきたいと思います。

３　全体的な考察と今後の取組

生徒、学校関係者へのアンケートと教職員による反省等から、全体的な考察と今後の取組をまとめました。

＜全体的な考察＞

○「学校に行くのが楽しい」「通う学校が宮前平中でよかった」と感じている生徒が多いことは喜ばしい結果ですが、その一方で約１割～２割の生徒が否定的な回答をしています。一人ひとりに丁寧に寄り添いながら、学校という場が生徒にとって安心して学べる場となるように取り組む必要があります。

○未来を切り拓く学習とは、基礎的な知識を深く理解して主体的に課題を見出し、仲間との協働活動を通して課題解決を目指すこと、そのために必要なコミュニケーション力を高めることや適切ＩＣＴを活用することなどが上げられます。そういった学習をさらに展開していきたいと思っています。

○教職員が「一人ひとりを大切にしている」、「親身になって相談を聞いている」という問いに肯定的な回答が多いです。また、「いじめはいけない」という規範意識を持っていて、「友達から大切にされている」と感じている生徒が多くいます。しかし、一方では学校生活や対人関係などに心配や不安を抱えている生徒がいて、そのことが不登校の要因となっているケースもあります。生徒の抱える悩みについてより深く理解し、必要に応じて教職員が連携して対応する体制作りを進めていく必要があります。

○感染拡大防止対策については、学校活動との両立を考慮しながら進めていくことが課題です。

○地域貢献については、コロナ禍前からの本校の重要な課題です。「地域の中にある学校」という認識を大切にして、地域連携を検討する必要があります。

＜今後の重点的な取り組み＞

◎生徒の命を守ることを大前提にして、感染拡大防止対策をしながら教育活動の充実を図っていきます。

○生徒一人ひとりに丁寧に寄り添い、共感的な理解をしながら、適切な支援ができる体制作りをしていきます。

○基礎的な知識をしっかりと理解する学習や、主体的に課題を見出し、仲間との協働活動を通して課題解決を目指す学習を進めていき、未来を切り拓く主体形成に取り組みます。

○地域との連携を深めるために地域の皆様と共に協議しながら、生徒が参画できる機会の設定を目指します。